

基礎造形

担当教員 柏木 弘

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 実技

単位数 6.0

【授業のねらい】

前期は色、かたち、テクスチャーといった造形の基本要素と各種原理を描くことを通して学び、広い意味での造形力を修得する。

後期は主に繊維素材の特性と技法の関係に注目して造形の可能性を学ぶ。

【授業の展開計画】

広い意味での造形の基礎と繊維素材による造形の可能性を探る。「バスケットリーの定式」では客員教授の関島寿子先生、「写真撮影実習」では臨時講師の先生をお招きして授業を行う。また、6月には山中湖セミナーハウスでワークショップを、9月には紙漉工房見学を予定している。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	色彩演習	16	触覚について
2	色彩演習	17	葛の繊維から紙をつくる
3	視覚混色による描写	18	葛の繊維から紙をつくる
4	材料体験としての200枚のドローイング	19	紙漉きの方法でテクスチャーをつくる
5	材料体験としての200枚のドローイング	20	紙漉きの方法でテクスチャーをつくる
6	見ること描くこと - 道具について描く -	21	描かれたテクスチャー
7	線について描く - 動く人体を描く -	22	錯視図形と装飾空間
8	バスケットリーの定式	23	錯視図形と装飾空間
9	バスケットリーの定式	24	写真撮影実習
10	線について描く - 植物について描く -	25	繊維素材による立体造形
11	線について描く - 植物について描く -	26	繊維素材による立体造形
12	かたちを平面上に配置する	27	繊維素材による立体造形
13	かたちを平面上に配置する	28	版または染みによる表現
14	かたちを平面上に配置する	29	版または染みによる表現
15	かたちを平面上に配置する	30	版または染みによる表現

【履修上の注意事項】

基礎造形 では出来上がった結果としての課題制作物よりも、制作のプロセスでの思考錯誤を重要と考えている。また、学生相互の影響関係から生まれる刺激も授業を進める上で大切な要素と考えている。そういった意味で、学生一人一人の授業へのプレゼンスが強く求められるので遅刻、欠席がないように注意されたい。また、課題制作を通して学生各自のものの見方、感じ方、考え方を修得してほしい。

【評価方法】

出席回数50点、期限内課題提出数30点、課題へ取り組む姿勢と授業参加への積極性20点を総合して評価する。

【テキスト】

年間行われる約14課題の内容とレポート用紙をプリントにて配布。

【参考文献】

随時配布、または研究室にて閲覧できるようにする。

基礎造形

担当教員 弥永 保子 川井 由夏 吉川 真由 辛島 綾

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 演習・実技

単位数 5.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

さまざまな繊維素材に実際に触れその触覚的な特徴を体験しながら、テクスチャと色彩を中心ににおいてテキスタイルの基本要素を学ぶ。また、2年生次へのイントロダクションとして、染・織をはじめとした基本技法の原理を理解して、素材と技法を体験する。基礎造形と並行して実習を行い、2年次以降の課程の土台作りを行う。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1～5	表層と手ざわり / テクスチャーについて	繊維素材を実際に手にしてふれながら、テキスタイルの触覚的な特徴を探り親しむ。手と身近な道具によって素材を加工、変化させてテクスチャー表現を探求して制作する。
6～10	色をつくる / 植物染料と化学染料の扱いについて	浸染の工程を学び、染料の扱いについて理解し、その色彩に親しむ。直接染料・酸性染料を用いて、綿糸・毛糸の浸染実習とカラーサンプルを作成する。
11～15	テクスチャーと色彩 / 絞染実験	絞り染の基本を学びながら表現の可能性を探る。絞りによる布の変化、テクスチャーを探求しイメージをもとに制作する。
夏期休暇課題	自然から抽出した色を糸や布に染め発表する。	
	染料実習（植物染料）	身近な代表的な植物から色を抽出し、布を染める実習を行う。化学染料とは異なる植物染料の扱いと色彩を体験する。
16～19	型染 形態を染める	基礎的な型染の方法を学ぶ。ひなた（日向）・かげ（影）・くくり（括り）といった型の特長を理解して作品制作を行う。
20～22	素材から布へ1 / 不織布・フェルトづくり	原毛を使用して手紡ぎ糸とフェルト制作の基本的な工程を学ぶ。原材料から糸や不織布をつくる実習を通して、様々なテクスチャーを発見し造形の可能性を探る。
23～24	リピートを生かしたプリントデザイン	様々なプリント技法についての知識を広げ、リピートを生かしたプリントデザインとは何かを考え制作する。シルクスクリーンの原理を学び、製版プロセスと刷りの実習を行う。
25～29	素材から布へ2 / 織について	フレームによる織物実習を通して基本組織を学ぶ。実際に織る工程を体験することで織物の原理を学ぶ。
30	講評会	

【履修上の注意事項】

すべての課題を体験するプロセスが、テキスタイルの基礎となり、2年次へ以降の課程に備えることになるので、通年通しての出席を厳守してもらいたい。そして、実際に体を動かし、手で素材に触れる体験を楽しみながら積極的に取り組んでほしい。

【評価方法】

出席回数、課題提出数、課題の理解と展開、取り組む姿勢等、総合して評価を決定する。

【テキスト】

教科書はとくに使用しない。教材は随時、必要に応じて指示する。

【参考文献】

授業の中で随時指示する。

基礎製図

担当教員 ジョン・F・リーバー

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

立体の表現に焦点をおき、基本的な製図法を学びます。
アイソメトリック図、透視図等の三次元の製図法の理解を深め、習得します。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1		授業内容の説明、基礎製図概要
2		製図の基本要素（文字、記号）
3		” （線）
4,5		製図の種類と各図法の目的
6		三面図（平面、正面、側面）
7		三面図からアクソメトリック図への転換
8,9		縮尺と寸法
10,11		アクソメトリック図からアイソメトリック図（ 30° 、 30° ）への転換
12,13		ダイアメトリック図（二等測投影図）；左右の角度が同じ
14,15		オブリック図（斜投影図）（ 30° 、 45° ）
16,17		中心からの一点透視図
18,19		一点透視図（左右からの視点）
20,21		二点透視図（仰瞰図）
22,23		二点透視図（鳥瞰図）
24,25		三点透視図
26,27		二点透視図（スケッチ）
28		ファイナルプロジェクト
29		ファイナルプロジェクト
30		ファイナルプロジェクト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

各課題の提出、成績を重視します。

【テキスト】

【参考文献】

カラーコーディネーション

担当教員 怡田 勉

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

実践的なベーシックパターンデザインの製作を通して色彩の諸法則を体感的に学習し、カラーリングのプロフェッショナルとしての基礎能力習得を学習目標とする。机上の色彩理論とは一線を画した、デザインの中での『生きた色彩力』を身につけて欲しい。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	オリエンテーション	授業内容と学習目標の説明。使用する画材などの説明。
2	色彩の基礎知識	<理論> 色彩に関する基礎的概念の確認 <実習1> 補色混合による中間色カラーカードの作成
3	ベーシックパターン & カラーリング	<理論> 基礎配色法 カマイユ&フォ・カマイユ <実習2> 2色ストライプ×2スワッチ
4		<理論> 基礎配色法 ベース/アソート/アクセント <実習3> 3色ドット柄×2スワッチ
5		<理論> 基礎配色法 ドミナントによる色彩調和 <実習4> 4色グリット柄×2スワッチ
6		<理論> 基礎配色法 セパレーション効果 <実習5> ストライプ柄×2スワッチ
7		<総評> 基礎配色法のまとめ/スライドショー
8	引用した色彩でデザインする	<実習6> マップに沿った色彩計画で3種のパターンスワッチを作成
9		
10	テキスタイル製品をイメージしてデザインする	<実習7> プラシ技法による平織りチェック柄の製作
11		
12		<講評> 実習6,7のプレゼンテーションと講評会
13	空間に対する色彩計画	<実習8> B1サイズのパナーをデザインする
14		
15		<講評> 実習8の講評会

【履修上の注意事項】

出来るだけ授業時間内に実習課題を製作する事が望ましく、講評は勿論講師とのコミュニケーションを大切に考えて欲しい。尚、実習に使用する画材はアクリルガッシュまたはポスカラとする。紙材はケントを支給する。他に製図用具、A4クリヤーブック等を初回から使用する。

【評価方法】

- 1、演習課題：前半10pt × 4 / 後半20pt × 3 これら全課題の平均点を評価の第一基準とする。
- 2、更に出席率を学習意欲評価として第二基準とする。全授業の2 / 3以上出席を単位取得の必須条件とする。
- 3、未提出の課題を放置したまま履修期間を終了すると著しく平均点評価を損なう事になるので注意する事。
- 4、課題提出が著しく遅延した者や後半課題のエスキースチェック欠席者は評価から減点する。

【テキスト】

毎回の授業で講師よりレジメを配布するので、必ずファイリングして保管し毎回の授業に持参する事。

【参考文献】

Color Master (ADEC色彩士検定委員会編) ・BASIC(3級対応)
// ・STANDARD(2級対応)

基礎コンピュータ概論

担当教員 加藤 勝也

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 4.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

各々のアウトプットの質の向上を目的とする。昨今デザインワークに欠かすことのできないAdobe Illustrator、Photoshop等のアプリケーションを使用し、コンピュータを身近にデザイン制作のツールとして使用できるよう基礎技術の習得を目指す。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内 容
1	オリエンテーション	授業概要の説明・コンピュータ(OS)の基本操作
2	Adobe Photoshop基礎学習01	概要・機能解説・実践
3	Adobe Photoshop基礎学習02	機能解説・実践
4	課題A: Adobe Photoshop	Adobe Photoshopを使用した作品制作
5	課題A: Adobe Photoshop	制作日・課題提出
6	Adobe Illustrator基礎学習01	概要・機能解説・実践
7	Adobe Illustrator基礎学習02	機能解説・実践
8	課題B: Adobe Illustrator基礎学習01	Adobe Illustratorを使用した作品制作
9	課題B: Adobe Illustrator基礎学習02	制作日・課題提出
10	最終課題01	Adobe Illustrator, Photoshopの互換を使用した作品制作
11	最終課題02	制作日
12	最終課題03	制作日
13	最終課題04	制作日・課題提出(データ確認)
14	講評	各自作品のプレゼンテーション・講評
15	総括	

【履修上の注意事項】

難しく複雑と思われがちなコンピュータであるが、目的を絞り日々使用してゆくことで各々の制作に役立つ、便利なツールとなる。学習にはステップアップが必要なので遅刻・欠席を極力避け地道な学習を心掛けること。

【評価方法】

出席・提出物(課題)・授業内容の習得度を総合的に判断し評価とする。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

基礎コンピュータ概論

担当教員 加藤 勝也

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 前期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

1年次の「コンピュータ概論」で学習した内容を基本にし、より実践的な課題を行うことで、アプリケーションの応用的な技術の習得を目標とする。各自がデザイン制作のツールのひとつとしてコンピュータを選ぶことができることがねらいである。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	オリエンテーション	授業概要の説明・Adobe Illustrator, Photoshop 基本復習
2	Adobe Photoshop 応用01	復習・機能解説・実践
3	Adobe Photoshop 応用02	機能解説・実践
4	課題A	課題説明 + 作品制作
5	課題A	作品制作 + 課題提出 (データ確認)
6	Adobe Illustrator 応用01	復習・機能解説・実践
7	Adobe Illustrator 応用02	機能解説・実践
8	課題B	課題説明 + 作品制作
9	課題B	作品制作 + 課題提出 (データ確認)
10	最終課題01	課題説明 + 作品制作
11	最終課題02	制作日
12	最終課題03	制作日
13	最終課題04	制作日・課題提出 (データ確認)
14	講評	各自作品のプレゼンテーション・講評
15	総括	

【履修上の注意事項】

コンピュータの学習は経験を積むことでだれにでも習得可能なものとなる。
遅刻・欠席を極力避け地道な出席を心掛けること。

【評価方法】

出席・提出物(課題)・授業内容の習得度を総合的に判断し評価とする。

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

基礎染織表現

担当教員 檜垣 檀 弥永 保子 川井 由夏

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 演習・実技

単位数 11.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

染・織それぞれ独自の基本技法と表現、道具・繊維素材の特徴と扱いを学ぶことによって、染織の基本的な技法を習得して、専門課程の作品制作への土台とする。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	織基礎 1	織機の構造と操作、付随する道具の扱いについて学び、織布の制作工程を実際に経験して理解する。経糸と緯糸の関係、織により色系の混色効果を知る。
2・3	織基礎 2	基本的な織物組織について学ぶ。三原組織を理解し、組織図の読み取り方、作図の方法を学ぶ。サンプル織作成を通して、平面上の組織図と実際の織工程・織布との対応関係をよく理解する。
4～7	織作品制作	イメージを織物へ、計画から制作の過程を通して、構想に対して作品実現のために繊維素材・配色・織技法等の要素がどのように関わるかを理解する。
8・9	染色実験	作品展示と講評会 シリアス染料によるマス色見本作成・友禅糊による筒描きの演習・糊防染による引き染め。
10～12	糊技法 1	糊防染による多様なテクニックを追求しマチエールの発見を通して糊技法を学ぶ。
13～15	糊技法 友禅染	筒描き（糸目による友禅染）の演習。筒描きによる自画像作品の制作。
16・17	織基礎 3	綴織／タペストリー技法を用いて形態を織り出す方法を学ぶ。 各自のデザインをもとに、レリーフ表現を利用したり、素材を工夫しテクスチャを意識してかたちを織る。
18～21	作品制作	基礎技法を理解した上で、各自が着目した織表現の特徴、その魅力をいかした作品制作を行う。構想を練って、素材や技法を探る。サンプル作りを十分おこない、完成度の高い作品を目指す。
22	染色実験	酸性染料によるカラーサンプル作成
23～25	蠟による基礎技法	蠟による表現と各技法の演習、テクスチャーの研究（線描く、面伏せ、半透し、堰出し、エッチング、ブロック、スクラッチ、吹雪、たらし等）
26～30	作品制作	基礎技法を把握し、中間脱色や蠟糊併用等の表現を用いてテーマにそって作品制作

*クラスを2グループに分け、1週～7週、8週～14週、15週～21週、22週～29週を染と織の授業を交替でおこなう。

【履修上の注意事項】

毎週、基礎技法の各工程が進められるので、デモンストレーションや説明を逃すことのないように通年通しての出席を厳守してもらいたい。また、新しい技法を受身で理解するのではなく、自らよく考え課題の中で実験、工夫して積極的に取り組んでほしい。

【評価方法】

出席回数、課題提出数、作品の内容、課題の理解と展開、取り組む姿勢など総合して評価を決定する。

【テキスト】

特に教科書は使用しない。教材は随時、必要に応じて指示する。

【参考文献】

授業の中で随時指示する。

基礎テキスタイルデザイン

担当教員 高橋 正 今野 文雄 怡田 勉

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 実技

単位数 4.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

テキスタイルに於けるパターンデザインは素材と生産技術が結びつき使用されます。プリント、ジャガード織、又それらの組み合わせなど、技術は多岐に渡ります。同時に、デジタル化により大きく変化している生産技術の多様化に目を向けながら色彩やパターンデザイン表現を通して、テキスタイルデザインの基礎を学びます。

(単色シルクスクリーン実習、多色シルクスクリーン実習、転写プリント、ジャガード織)

【授業の展開計画】

週 授業項目

1-9週 『自然からの啓示』 スクリーンプリント

同じコトやモノも見方次第で新たな発見があります。見え方とは考え方と言い換えることができます。難解なタイトルに思えますが、毎日アイデアを考えていると、突然に降って湧いたように閃くことがあります。日常、何気なく見ている自然も、デザイン制作のテーマとして継続的に多様な方法で観察してみることから考察することを学びます。

10-23週 (水曜日) 『グループで魅せるデザインプレゼンテーション』

イメージマップを羅針盤とした、計画的なデザイン群の展開を行います。「目的地」と「現在位置」を正確に把握する事で「デザイン中の迷い」や「方向性のブレ」を払拭し、制約の中で逆に「真の自由さ」を勝ち得る発想の転換を経て既成概念に捕われない幅広く豊かな発想力と、アイデアを活かした的確な展開力を身に付けます。

10-23週 (木曜日) 『色彩の力』 コンピュータジャガード 多色プリント コンピュータ演習(シンメトリー)

繊維製品はその機能性もさることながら、情緒性は大変重要視されます。色彩は最も重要なファクターといえます。色彩の相関性や独自性ととも、視覚混色、同時対比等の色彩特有の視覚的効果を加味してデザインを考えます。

24-30週 『自由課題』 ポリエステル素材・転写プリント

各自が考える「テーマ」に従い、デザインが及ぼす空間への広がりや色彩効果による空間イメージ変化を学びます。(インテリアショップ見学)「テーマ」性を考えたイメージプレゼン制作やカラーリング効果を考えたデザイン制作を目指します。

【履修上の注意事項】

体験的な学習を心掛けます。また、学生間の意見交換を予定していますので毎回授業参加を心掛けて下さい。週毎の細かい計画は第1回のガイダンス時に説明し、スケジュール表を渡します。

【評価方法】

出席率、課題提出率、課題の理解、取り組む姿勢等を総合的に評価します。

【テキスト】

特にありませんが、必要に応じて用意致します。

【参考文献】

必要に応じて、紹介致します。

染

担当教員 弥永 保子 檜垣 檀

配当年次 3年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 演習・実技

単位数 8.0

準備事項

備考 前期：弥永 保子、後期：檜垣 檀

【授業のねらい】

前期（染表現）…型染、その他基本的防染技法の応用とデザインを学ぶ事により、幅広くアイデアを展開し、現代に即した思考と柔軟な感性を磨くことを目標にする。

後期（染表現）…課題に即した目的、コンセプトを明確にし、染色表現で（友禅染、型染、蠟染などの防染による）新鮮かつ創造的な作品制作。特別講座を随時導入する。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	オリエンテーション	・型染材料・用具の説明
2,3	技法実習	・型による基礎技法 地白・地染による型デザインの把握（型彫り・紗張り・型糊・型繫ぎの実習）
4～6	特殊加工表現を	・塩縮、オパール、その他特殊加工技法を習得し、布の表情や質感の変化を学ぶ。
7～11	空間にかかわる創作	・染色実験（堅牢染料によるカラーサンプル作成） ・空間を設定し、スペースディバイダーとして機能を明確にした作品制作
12～14	身体にかかわる創作	・プレゼンテーション添付 ・日本の伝統的衣装を現代の生活環境を認識した上で、着尺 - 浴衣 - をデザイン
15	夏休み課題説明	・サンプル提出
16～20	夏休み課題 身体にかかわる創作	・特別講座（松原與七「長坂中形を学ぶ」） ・着尺制作 ・プレゼンテーションボード添付
21～24	空間にかかわる創作	・技術をさらに追求し、オリジナルで魅力ある染布を時代に即して、エコロジカルな面も考え制作する。 ・プレゼンテーションボード制作 ・サンプル制作から作品制作
25～30	自由制作	・染色表現による立体作品を制作 ・空間演出（空間を設定し、目的、コンセプトを明確にした作品、モビール、オブジェ、レリーフ等を制作し、自由に演出する。） ・プレゼンテーションボード制作 ・今までに習得した染色技法を駆使し、各自の研究を更に追求した染色表現による作品制作（構成、色彩等を考え素材を適切に選ぶ。） ・プレゼンテーションボード制作

【履修上の注意事項】

世界の染織品を学び研究した上で、新しい若々しい感性でデザイン・作品制作する。

【評価方法】

課題提出期限、出席日数、作品の内容、取り組む姿勢など総合評価。

【テキスト】

【参考文献】

【美術学部 テキスタイルデザイン】

染

担当教員 檜垣 檀 弥永 保子

配当年次 4年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 実技

単位数 12.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

染 に続いて更に各自が追求したいテーマを設定し、その目的に応じた染色デザイン及び染色表現の研究を深め、集大成として卒業制作をおこなう。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内 容
1	オリエンテーション	
2	「ウェア」又は 「空間を演出する造形表現」	・各自テーマを絞り、目的を明確にした布の造形表現を試みる。 ・空間を設定して、その目的に応じた素材や技法、機能を更に追求し、制作する。
3	〃	・プレゼンテーションボード制作
4	〃	
5	〃	
6	〃	
7	〃	
8	〃	
9	〃	
10	卒業制作試作	・卒業制作に関連した試作
11	〃	・プレゼンテーションボード制作（サンプルファイルを含む）
12	〃	・特別講義「切金」（月岡裕二）
13	〃	
14	卒業制作プランニング発表 夏休み課題	
15	卒業制作	・4年間の集大成としての染表現の追求

【履修上の注意事項】

学生時代に学ぶべきこと、しなければならないことを的確に把握し、計画性を持ってデザイン・作品制作すること。

【評価方法】

課題提出期限、出席日数、作品の内容、取り組む姿勢など総合評価。

【テキスト】

【参考文献】

織

担当教員 橋本 京子 辛島 綾

配当年次 3年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 演習・実技

単位数 8.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

織を中心にした基本的なテキスタイル技法を学び、先端的な素材なども視野に入れ多種多様な素材を探求する。これらの技法、素材を用いてテキスタイルデザインの持つ造形性、社会性、機能性、生産性などを幅広く考察し、人と生活環境に深く関わるテキスタイルの自己表現の可能性を学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	オリエンテーション及び課題説明	* 授業の目標とスケジュールの確認、組織図、柄図について復習
2,3	素材と組織	* 天秤式洋機の操作と織の基本組織を学ぶ(4枚~8枚綜統) 多綜統の織組織とテクスチャーとの関係を学ぶ
4,5	素材と組織	
6,7	素材と組織	
8~10	布の表層	* イメージに基づいた織物を作る。繊維素材の選択と織組織との組み立て方を学ぶ。コンピューターによる織組織の設計方法を合わせて実習する
10~12	身体と布	* 身体と布の関わりを広く考察し、布の持つテクスチャーや機能性を考えデザイン、制作する
13~15	ポケット	* 重ね組織の基本技法を学び、ポケット作品を制作する
16~20	地球環境とデザイン	* 持続可能なデザインについて考察する(レポート提出) 地球環境への負荷を少なくするためのもの作りや、資源の有用性などを捉て機能性ある作品を制作する
21~23	緋	* 基本的な緋織の技術を学び、ネックウエアを制作する
24~28	住空間の布	* 建築空間におけるテキスタイルの意義や役割を考察し、デザインをすう。現存する建築空間を設定のもとに制作を行う。
29~30	多綜統の織物	* コンピュータードビー織機で多綜統による織物を学ぶ。コンピュータ織機の特徴、構造など使用方法を実習する

【履修上の注意事項】

織の専門課程であり、知識、技術等のプロセスを十分に習得しステップアップしていく実習授業で高出席率が要求される。

【評価方法】

課題期日提出・出席評価、課題作品の内容、取り組む姿勢など総合評価

【テキスト】

課題に準じてに教材プリントを配布する

【参考文献】

【美術学部 テキスタイルデザイン】

織

担当教員 橋本 京子 川井 由夏

配当年次 4年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 実技

単位数 12.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次までの実技実習に引き続き、思考と実験的な試みを重ねて独自の造形表現を深め、集大成として卒業制作を行う。

【授業の展開計画】

週 授業項目

内 容

1 ガイダンス

2~3 テーマ検討

4~5 リサーチ

6~7 アイデアデザイン

8~10 サンプル制作

11~14 制作

15 作品提出 ・ 講評会

* 3年次から関心のある領域を絞り込み、テーマを決定しリサーチを行う。この結果に基づき実践的側面から素材・技法・表現方法等を選択し作品制作を行う。

* 4年間習得した繊維に関わる知識や技法を生かし、オリジナリティーのある繊維造形の作品制作を行う。前期の研究、試作を基に卒業制作へと進展させる。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

課題期日提出・出席評価、課題作品の内容、取り組む姿勢など総合評価

【テキスト】

【参考文献】

サーフェス・デザイン

担当教員 高橋 正 今野 文雄

配当年次 3年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 演習・実技

単位数 6.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

デザインは意匠や素材だけの追求に留まらず、製品が使用される状況や機能を想定して行います。その状況とは仮想することであり、機能とは現実のもので、このどちらが欠けても上質なデザインは生まれません。表層を形作る色彩、素材感、パターンといったデザイン要素を駆使して試作を重ねデザインを完成させます。また、自分との対話を通して、デザインをより深く捕らえ、デザインの独創性を追及し、その市場へのアプローチを戦略的に学びます。

【授業の展開計画】

1~7週『屋外で使用する布/屋内で使用する布』

色彩の力や、パターンデザインの善し悪しは使用される状況により異なります。屋外と屋内では顕著に現れます。その差異を比較検討し違いを体験します。グループ学習を前提とし、グループ間やグループ内での検討会を通して相互コミュニケーションの大切さを学びます。体験学習のため講評会は現地（屋外）にて行いません。

8~15週『プリント技術を駆使した布』

研究開発が盛んな繊維産業に於いて、素材開発だけでなく後加工と呼ばれる染色整理加工も格段の進歩を見せています。その技術や材料に目を向けて新たな使用目的を創出できる布制作を目指します。広く学外の情報をキャッチして、事前調査をしてからデザインに入ります。試作品はプリントや後加工技術を技術指導員と話し合いながら進めます。

16~23週『「自己ブランド」を立ち上げる』

「ブランド」を立ち上げるをテーマに、各自コンセプトメイキングを制作。次に空間ディレクションを研究し、イメージ写真とスケッチを基にイメージマップを制作。同時にカラーリングを完成する。コンセプトメイキング、イメージマップをベースにファブリックスが空間にもたらすデザイン効果（デザインのコーディネート）を考えたデザインを制作。又、実際のモノの落とし込みを考えたデザインマップを制作する。

24~30週『テキスタイルプロダクトーポケットに入る環境ー』

サーフェスデザインは布と結びつくことで、コンパクトに持ち運べ各々の環境のなかで状況を演出することが出来ます。布の機能性とサーフェスデザインの表層性を考慮した製品をデザインします。試作品完成後、写真撮影技術実習を行いポートフォリオ作成します。この授業は学生自身によるコンセプトのディベート等を通してデザイン制作を進めます。

【履修上の注意事項】

自分が理解出来ないものを他人に伝達することは出来ません。ディベートやプレゼンを通して、自分の個性や主張を顧みること。説得力のあるデザインに一步でも近付けることに努力を惜みず継続すること。創造活動に於いても学習の段階においては、結果が全てではありません。失敗を恐れてはいけません。日々努力がなければ、閃きはないと考えるべきです。週毎の細かい計画は最初のガイダンス時にスケジュール表を配布します。

【評価方法】

出席率、課題提出率、課題の理解、取り組む姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて対応します。

【参考文献】

必要に応じて対応します。

サーフェス・デザイン

担当教員 高橋 正

配当年次 4年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 実技

単位数 12.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

ここでは一歩踏み込んで素材から自立するパターンデザインを目指します。技術や素材の事前調査を行い、環境における色や形によるパターンデザインの効果を探ります。卒業制作に向けて各自のテーマや方向性を探る機会にします。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	ガイダンス	環境をテーマにサーフェスデザインを学習します。
2	色彩やパターンの実際例を調査	卒業制作を視野に入れて、各自がその専門のテーマを選択しデザイン制作をします。
3	色彩やパターンの実際例を調査	
4	基本コンセプト作り	
5	レポート提出（検討会）	
6	デザイン構想	
7	デザイン構想	
8	デザイン構想	
9	学生間によるディベート	
10	デザインの再構成	
11	デザイン制作	
12	環境の縮小モデル作り	
13	写真撮影	
14	プレゼンボード作成	
15	講評会	

【履修上の注意事項】

学部の最終学年として、テーマを掘り下げることを心掛けてください。個別的テーマが社会的な説得力を持つことが卒業にあたっての必要条件だと考えます。テーマを継続的に追求することは、紆余曲折はあっても、創造活動には不可欠であると思います。

【評価方法】

出席回数、課題提出、課題の理解、取り組む姿勢、自立精神等を総合的に判断して評価します。

【テキスト】

随時、対応します。

【参考文献】

随時、対応します。

ウェア・テキスタイル

担当教員 吉川 真由

配当年次 3年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 演習・実技

単位数 6.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

テキスタイルを現代的な視点で捉え、ウェアデザインへ展開し表現方法の可能性を学ぶ。
身体とテキスタイルの関わりを考察し、独自の素材開発、及びそこから発想したウェアデザインを社会へ向け提案する力を養う。
しなやかな感性とひらめきを持続できる力を身に付け、より多くの新しい創造性を追求する。

【授業の展開計画】

週 授業項目、内容

1~4 『カラー&ステッチ』布上でミシンを使用し、色系の軌跡によって平面上でウェアデザインを提案する。ミシンや手縫いによる基本的な縫製技法を学ぶ。

5~8 『ペーパーウェア』あらゆる紙の素材を使い、加工を施してウェアや身体にまつわる作品を制作する。

9~11 『インクジェットプリント』フォトショップ、イラストレーター、ペインターソフト等を利用してワンピースをデザインし、インクジェットで製品プリントする。ジャージ素材の縫製を学ぶ。

12~15 『着抜プリント』反応浸染とシルクスクリーンによる着抜プリントによるシャツをデザインし縫製を学ぶ
シャツの縫製を学ぶ。

『基礎身体製図』身体におけるパターンメイキングの基礎を学ぶ

夏休み課題；各自の研究テーマを決め、テキスタイル又はウェアデザインに関する分野でのインターンや社会経験をを行いレポートする。

16~20 『ジオメトリック』TRパターンを利用してジオメトリックをテーマに自由な発想でウェアを制作する。T/Rパターン、スカートとパンツの作図を学ぶ。

21~25 『ニット』ニットを使ってウェアを制作する。基本的な手編みと機械編みの技法を学ぶ。

26~31 『テーラードジャケット』テキスタイルの複合技法を応用し、テーラードジャケットを制作する。テーラードジャケットの縫製を学ぶ。

32 『ポートフォリオチェック』一年間の仕事をまとめたポートフォリオを作成しプレゼンテーション方法を学ぶ。

【履修上の注意事項】

積極的に素材開発のリサーチ、研究を行い、各自のスキルアップを目指す。
独創性を目指し新しい表現方法を常に模索する。
各自の仕事にあった制作計画を立て、期限内に制作、完成させる。

【評価方法】

1. 課題提出：独創性20点 完成度20点 作品提出期限20点 制作姿勢20点 制作の計画性10点
2. 出席状況 10点

【テキスト】

実習ごとに指示。

【参考文献】

実習ごとに指示。

ウェア・テキスタイル

担当教員 吉川 真由

配当年次 4年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 実技

単位数 12.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年間学んできた全技法を駆使してウェアへの展開を試みる。
社会に対して説得力のある新領域のデザインを考え、綿密な計画と制作技術で高い完成度を目指す。
ウェアとテキスタイルの接点を切り口に日常性よりも創造性に重点をおいたクリエイションを追求する。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	『パーツを繋ぐ』	
	同じパーツを繋げてできる造形を利用してウェアを制作する。	
2	''	
3	''	
4	''	
5	『エコロジー』	
	エコロジーをテーマに自由な発想でウェアを制作する。	
6	''	
7	''	
8	''	
9	『自由課題』	
	卒業制作の計画を視野に入れたテーマや技法を選択し、実験を繰り返して新技法を見つけ出し、独自のウェアを制作する。	
10	''	
11	''	
12	''	
13	''	
14	''	
15	''	

【履修上の注意事項】

これまでの3年間で学んだ技術、技法を発展させより完成度の高い作品制作を目指すこと。
卒業後の進路を視野に入れつつ社会に向けて提案できる独自の作品作りを目指すこと。

【評価方法】

1. 課題提出：独創性20点 完成度20点 作品提出期限20点 制作姿勢20点 制作の計画性10点
2. 出席状況10点

【テキスト】

実習ごとに指示。

【参考文献】

実習ごとに指示。

繊維造形

担当教員 弥永 保子 柏木 弘 川井 由夏

配当年次 3年

単位区分 選択必修

開講時期 通年

授業形態 演習・実技

単位数 6.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

2年次までのテキスタイルの基礎技法の習得を踏まえたうえで、さらに既存のテキスタイル素材や技法のあり方にとらわれず、柔軟な発想で繊維素材による造形表現の可能性を追求する。繊維素材の特性の理解、表現の実践的な試みを積極的に行い、各自の造形思考を養い、独自の問題意識を見出し制作する。学生、教員相互の問題提起やディスカッションを行い考察を深める。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1,	授業ガイダンス	年間の授業スケジュールと授業の主旨、目標の説明
2~8	「繊維素材と美術」をテーマに造形実習を行う	
2,	「繊維素材と美術」スライドレクチャー	3,制作テーマを設定し構想開始 4,制作開始 5,制作
6,	中間発表	7,制作続行 8,講評会
9~15	「一本の糸から」をテーマに造形実習を行う	
9,	「繊維素材による表現に出会う」スライドレクチャー	10,問いかけを明確にして、制作の構想を開始 11,制作開始 12,制作 13,中間発表 14,制作続行 15,講評会
16~22	「一枚の布から」をテーマに造形実習を行う	
16,	布はきわめてフレキシブルな素材である。繊維が持つ特性を認識した上で造形表現への可能性を探る。	
17,	作品構想開始	18,制作開始 19,制作 20,中間発表 21,制作続行 22,講評会
23,	最終課題説明	課題内容説明
24,	作品構想開始	これまで行った課題の中で経験したことをベースに更に展開させる。最終課題作品制作へむけて問題意識を明確にする。
25,	制作開始	各自制作
26,	後期作品中間報告会	最終課題の構想を発表し方針を整える。
27,	制作続行	各自制作
28,	「展示について」	展示をテーマに授業を行う
29,	作品展示と講評会	作品を展示する技術についてよく考慮して実践する
30,	まとめ	

【履修上の注意事項】

上記授業計画をよく読み、適性を考え、積極的な意志を持って履修してもらいたい。

【評価方法】

出席回数、課題提出数、課題へ取り組む姿勢等を総合して評価を決定する。

【テキスト】

教科書は特に使用しない。教材は随時指示する。

【参考文献】

授業の中で随時指示する。

繊維材料学

担当教員 池田 善光

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 後期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 他学科へのオープン科目

【授業のねらい】

様々なテキスタイル製品を前にしたときに、それがどのような素材や技法で作られ、どのような性能を持っているのか、また、反対に製品を作る立場になったときに、どのような繊維素材を、どのように使えば目的とする製品が得られるのかを判断するのに必要な知識を身につける。

【授業の展開計画】

1. 繊維の概念：繊維になる条件、繊維とはなにかを体験する実験
2. 繊維の分類：天然繊維、化学繊維(再生、合成)、繊維の生産高
3. 糸の出来るまで：フィラメント糸と紡績糸、番手測定の実習
4. 天然繊維(植物繊維)：種子毛繊維(綿)、靱皮繊維(麻)、葉脈繊維(サイザル) 他
5. 天然繊維(動物繊維1)：羊毛、獣毛(カシミア、モヘヤ、アルパカ、アンゴラ) 他
6. 天然繊維(動物繊維2)：絹(家蚕、野蚕)、繭から生糸を取り出す実験
7. 化学繊維(1)：再生繊維、半合成繊維、合成繊維
8. 化学繊維(2)：新合繊、機能性素材、繊維を巡る新しい話題
9. 糸から布へ(1)：織物の構造とその特徴
10. 糸から布へ(2)：ニット・不織布・紙の構造とその特徴
11. 繊維の性能と鑑別：繊維の各種性能比較、繊維の簡単な見分け方
12. 衣類の取り扱いの基礎知識：品質表示法、洗濯の理論、シミ抜き基礎
13. 副素材について：皮革、毛皮、ダウン、ボタン、レース、接着芯地、ラメ 他
14. 特殊技法による繊維製品：様々な染織や加工技法と、これを用いた繊維製品の紹介
15. 縫製の基礎と品質管理：縫製の基礎知識、繊維製品に生じる様々なトラブル

【履修上の注意事項】

必要に応じて、授業内容の理解に役立つ繊維サンプルを配布します。ホルダー等を準備すると良いでしょう。授業中に参考資料を回覧することがあります。皆が見られるように速やかに回して下さい。

【評価方法】

出席点と課題レポートの総合で評価します。配分は出席70点、課題レポート30点とします。

【テキスト】

テキストは特に使用せず、その都度プリントを配布します。

【参考文献】

授業では使用しませんが、内容理解に役立つ参考書をあげておきます。「文化ファッション大系 服飾関連専門講座 アパレル素材論」文化服装学院編/辞書「図解 染織技術辞典」田中清香 土肥悦子著 理工学社

デザイン・プレゼンテーション

担当教員 永井 雅行

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 後期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

物をデザインする時に戦略が必要なように、商品やデザインをプレゼンテーションする時にも戦略が必要です。そのノウハウを理論と実践を踏まえてレッスンします。毎回授業にそった課題が提出されます。

【授業の展開計画】

- 1) デザイン・プレゼンテーションの基礎を理論と実践の2方向でレッスンします。
- 2) ケース・スタディとして自分の「作品集（ポートフォリオ）」とグループ制作で「フリーペーパー」を制作します。

週	授業の内容	
1	理論編	デザイン・プレゼンテーションとは
2	"	制作プロセスについて
3	"	コンセプトシートについて（テーマ作り）
4	"	ストラテジーについて（企画書の大切さ）
5	"	サムネイル/ラフ案について
6	"	デザイン・レイアウト/フィニッシュについて
7	実践編	ケース・スタディ 1「ポートフォリオ」
8	"	"
9	"	講評
10	"	ケース・スタディ 2「フリーペーパー」（グループ制作）
11	"	"
12	"	"
13	"	"
14	"	講評・プレゼンテーション
15	"	提出

【履修上の注意事項】

前半の理論編で得た知識を、いかに実践で具体化するかが「カギ」です。

【評価方法】

- 1) 毎回提出された課題の採点（3分の2以上提出のこと）
- 2) ケース・スタディ 1・2の「クオリティ」と「プレゼンテーション力」
- 3) 出席（3分の2以上提出のこと）

【テキスト】

なし

【参考文献】

「考えるデザイン」中島祥文（著）美術出版社

テキスタイルプロダクト論

担当教員 高橋 正

配当年次 3年

単位区分 必修

開講時期 後期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 隔週授業 他学科へのオープン科目

【授業のねらい】

日常空間に溢れている繊維関連製品は、素材として扱われることが多い。その性質上アノニマスなデザインといえるが、素材としての機能性開発は多方面で行われており国際的にも目を見張るものがある。それらにスポットを当て、各分野のデザイナーやアートディレクター、有学識経験者を招きテキスタイルプロダクトの現状や今後の展望について講義を受けます。

【授業の展開計画】

授業項目

デザイナーの視点で捉える世界市場と生産現場
床デザインの現在
道具としての服
アートディレクターからのプロダクト提案
インテリアファブリクス（複合繊維の可能性）
生活を楽しむプロダクト（3週に渡るワークショップ含む）
繊維製品の製造から市場への流通を俯瞰する
時代を超えた文様（復元への取り組み）

三原 康裕

村上 健

津村 耕佑

植原 亮輔

加藤 千明

名児耶 秀美

堀 肇

中島 洋一

【履修上の注意事項】

学外より各界の著名なクリエイターや技術者をお招きして講義をして頂く貴重な機会ですから、毎回出席して各自の視野を広げること。近い将来、社会において果たす役割などを考えることも重要であり、レポートの作成を通して自分の意見を正しく人に伝える努力をすること。

【評価方法】

1. 課題提出
2. 出席状況

【テキスト】

実習ごとに指示。

【参考文献】

実習ごとに指示。

テキスタイルデザインマネジメント

担当教員 川島 蓉子

配当年次 3年

単位区分 必修

開講時期 後期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 隔週授業

【授業のねらい】

アパレルという狭義のファッションにこだわらず、”まち・みせ・ひとのトレンドが最も早い段階で現象化するもの”という広義のファッションにおけるマーケティングについて考察する。

【授業の展開計画】

週 授業項目

1. ファッション業界を取り巻く環境
2. ファッション業界及び他業界におけるマーケティングの位置づけ
3. ブランドのあり方
4. マーケティング視点からとらえるトレンド
5. 市場視点から見たターゲットのとらえ方
6. 市場視点から見たマーチャンダイジング
7. 小売店及び販売
8. 総括

【履修上の注意事項】

狭い領域にとらわれずに、ファッションとは他業界とつながる視点であることを理解して欲しい。使い手の視点から見たマーケティングについて学んで欲しい。

【評価方法】

ブランドについてのレポートの提出。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

『ブランドのデザイン』弘文堂 『モノ・コトづくりのデザイン』日本経済新聞社

繊維組織学

担当教員 武田 修

配当年次 3年

単位区分 必修

開講時期 前期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 他学科へのオープン科目

【授業のねらい】

織物を作りあげるための、大切な要素のひとつが組織です。組織の組み方によって布の表面の状態、風合、視覚効果の違いなど大きく変化します。よって基本の三原組織を学習し理解する。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	組織概要	一般的織物の種類
2	織物組織	基本組織
3	"	三原組織
4	"	変化組織
5	"	布組織分解
6	"	" (色系効果)
7	"	"
8	"	風通織り、重ね織り
9	"	"
10	"	ストライプと縞割り表作成
11	"	簡単な紋と縞柄作成
12	"	"
13	"	織物設計
14	"	"
15	"	レポート発表

【履修上の注意事項】

たて糸、よこ糸の交差により様々な視覚効果や風合の違いが現れます。これを理解し、表現の可能性を広げる。

【評価方法】

1、課題レポート 30% 2、学習意欲 30% 3、小テスト 40%

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

繊維組織学

担当教員 武田 修

配当年次 3年

単位区分 必修

開講時期 後期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 他学科へのオープン科目

【授業のねらい】

繊維組織学 においては、ジャガード織物(紋織)の基本を学びます。
機械を使用して織る場合、様々な制約が出てきます。その中で織物を作り出して行く為の基本的な事を学びます。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内 容
1	紋織物概要	ドビー機による織りとジャガード織
2	紋織物の基礎	ドビー織機とジャガード織機の違い
3	"	工場見学等による知識
4	架物と釜	架物、釜について
5	"	釜にあわせた図案
6	紋織の設計	織物分解・設計の目的
7	"	布分解による理解
8	"	経糸密度、緯密度と柄の関係
9	"	素材・色・組織
10	"	図案の組織付け
11	"	"
12	織物とニット	ニット機械の見学
13	"	ニットの種類
14	レポート発表	
15	レポート発表	

【履修上の注意事項】

織り上がるまでに様々な手順のある事を理解する。

【評価方法】

1、課題レポート 30% 2、学習意欲 30% 3、小テスト 40%

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

テキスタイルテクノロジー論

担当教員 橋本 京子

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 前期

授業形態 講義

単位数 2.0

準備事項

備考 隔週授業 他学科へのオープン科目

【授業のねらい】

繊維産業社会における繊維素材や繊維加工などの最新技術情報や知識などを各企業の開発企画者や研究者を招き連鎖講座として行う。テキスタイルテクノロジーの「今」を学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	ファッションと合成繊維等の小松精錬における後加工方法の展開について	米沢和洋
2	独自の地球的視野から選出した綿の原料から各種の糸へと展開してゆく大正紡績のコットンストーリーを学ぶ	近藤健一
3	シルクの新たな用途開発	高林千幸
4	新非繊維のマテリアル、新テクノロジー及びそれらの手仕事への応用	樋口明久
5	バイオニクス観点からみた東レにおける化学繊維の発展	衛田正行
6	『こんなデザイナーはいらない!』～マイブランドを発信するデザイナーになるには～	小田外喜夫
7	ニッケ創作工房での毛織物の紡績から生産にいたる企画について	小山博士
8	紡績から最終製品まで一貫したオリジナルニットウェア生産で世界へ	佐藤正樹

【履修上の注意事項】

繊維業界のそれぞれの分野の方をお招きして講義を頂く貴重な機会ですので、欠席することなく、今後のクリエイションのための知識を深め、理解、応用を深めていくこと。毎回、授業後にレポートを作成し提出する。

【評価方法】

レポート提出50点、出席状況50点、

【テキスト】

特になし

【参考文献】

講師持参資料

卒業制作

担当教員 弥永 保子 高橋 正 橋本 京子 檜垣 檀 柏木 弘 川井 由夏 吉川 真由

配当年次 4年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 実技

単位数 10.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

4年間の集大成として今までに学んできたことを応用かつ展開し、繊維素材を基本とした自由で独創的な提案性の高いテキスタイル作品の卒業制作を行う。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1~13	卒業制作構想開始	4年次前期の専攻科目と並行して各自卒業制作の構想をたてる。卒業制作の問題意識（コンセプト）を明確にできるように、各自の着目する点に関してリサーチや考察を進める。実現のために素材や技術の研究、実験を具体的にを行う。
14	卒業制作プラン報告会	各自の卒業制作プランをエスキース及び口頭にて説明し専任教員全員の意見を聞く。
15	卒業制作構想続行及びサンプル、模型等の制作	プラン報告会の結果にもとづいて、構想を検討、修正を加える。夏期休暇を利用して、制作に向けての研究を深める。
16	卒業制作プラン採点	卒業制作の実現に向けてさらに具体的な構想、模型、サンプル、参考資料等を最終プランとして発表する。その発表に対して専任教員全員で採点を行う。
17~28	卒業制作開始	
29	卒業制作提出及び採点	卒業制作規定にしたがって提出する。
30	卒業制作展示及び講評会	

【履修上の注意事項】

卒業制作関連行事には全員必ず出席すること。関連行事への欠席、遅刻および発表内容不十分の場合などは減点の対象となり、卒業制作の成績に影響する。

【評価方法】

卒業制作の途中経過と提出作品を総合的に評価し成績を決定する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

個別に指示する